

藝 林

GEI RIN

第五十一卷 第一号

平成十四年四月

本書の根柢に横たはる予の確信はかうである。即ちドイツの歴史研究は、其の方法的作業の尊き傳承を棄去つてならないが、しかし更に向上して、國家生活及び文化生活の偉大なる力と共に自由に運動し、之と接觸しなければならぬといふ事、また其の本來の特質と目的とを損じてはならないが、しかし哲學と政治との中に、更に一層勇敢に入つてゆかなければならないといふ事、かくの如くにして初めて、史學獨特の本質を發展せしめ、普遍的にして同時に國民的なるを得るのであるといふ事、これ本書の根柢に横たはる予の確信である。

マイネツケ・『世界主義と國民國家』

再版の序（平泉澄譯）